

海産魚類防疫巡回指導事業

吉田 由孝・中西 廣義・小泉 広明・廣田 将仁

目 的

海産魚類の増養殖場における魚病被害の軽減とその蔓延防止を図るため、魚病発生時の早期診断及び治療等対策を行うとともに、増養殖場を巡回し防疫指導を行う。

材料および方法

1 魚病診断

海産魚類増養殖場からの魚病相談及び防疫巡回指導時に、魚病発生状況を調査するとともに、病魚の外観症状、解剖所見及び病原体検査により魚病診断を行った。

病原体検査では、鰓や鰭等の顕微鏡観察により寄生虫や細菌の異常増殖の有無を調べるとともに、寒天培地（0.5%加 NaCl 普通、0.5%加 NaCl トリプトソーヤ、0.5%加 NaCl プレインハートインフュージョン）での細菌分離と抗血清（社団法人日本水産資源保護協会から入手）による細菌検査を行った。

2 防疫指導

県内の海産魚介類増養殖場20ヶ所（図1）を対象に巡回し、魚病の発生状況、水産用医薬品の使用状況、防疫対策状況等を調査するとともに、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課作成のパンフレット「水産用医薬品の使用について」を配付し、水産用医薬品の適正使用や防疫対策について指導した。

3 魚病情報収集

魚病関連の会議や研修に参加し、情報交換及び魚病情報収集等を行った。

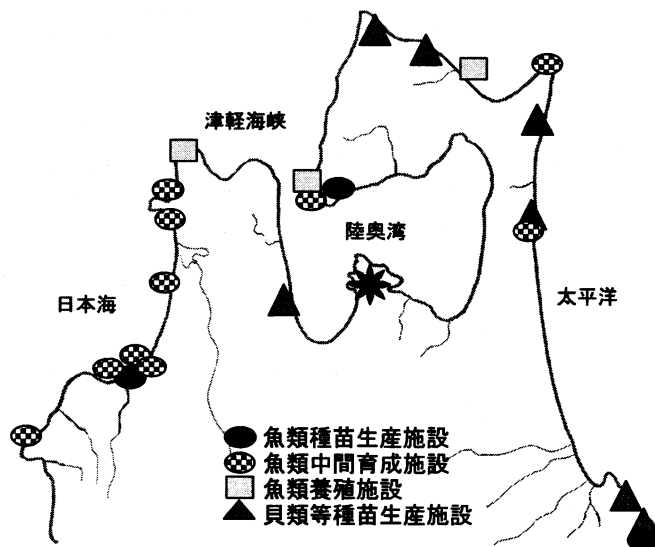


図1 防疫巡回対象の海産魚介類増養殖場位置図

結果および考察

1 魚病診断

平成19年度の魚病診断件数は、表1のとおり合計19件で、前年度より4件多かった。

魚種別に見ると、例年同様、栽培漁業技術開発対象種が大部分を占めており、中でもウスメバルが7件と多かった。

疾病別では、細菌性疾病が9件と多く、中でも異体類の滑走細菌症が多かった（表2）。特にマコガレイでは放流サイズで発生し、薬浴による被害軽減に努めたが、8割以上の減耗があった。このように例年見られるような疾病でも、場合によっては大量斃死に至ることもあり、このような事例を今後の飼育管理に活かすことが重要である。

また、被害は少なかったもののガス病が多く見られ、窒素ガスの過飽和による影響が考えられ、飼育用水の窒素ガス濃度の測定による取水配管等の設備の点検が必要と考えられた。

今年度も海産魚類で特に問題となっているウィルス病（VNN、VHS）は確認されず、引き続き種苗の移入に注意するとともに、異常へい死的確な原因把握に努める必要がある。また、使用できる水産用医薬品が少ないことから、これまでの魚病発生事例を参考に、防疫対策に努める必要がある。

表1 年度別魚種別魚病相談、診断件数(平成15～19年度)

魚種名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
ヒラメ	4	3	2	3	4
クロソイ	3	2	3	7	
マダラ	1	2			1
マコガレイ	3	2	5	1	4
ウスメバル		3	7	3	7
キツネメバル	1	1	1		3
ニジマス	1	2	2	1	
エゾアワビ	3				
ヌマガレイ			2		
マガレイ		1			
クロマグロ	1				
合 計	17	16	22	15	19

表2 魚種別疾病別診断件数(平成19年度)

疾病名	ヒラメ	マダラ	マコガレイ	ウスメバル	キツネメバル	合 計
滑走細菌症	2		2			4
ビブリオ病		1	1			2
腸管白濁症	1					1
その他細菌感染症				2		2
エピテリオシスチス病				1		1
白点病				1		1
その他寄生虫症				1		1
ガス病	1		1	1	1	4
その他				1	2	3
合 計	4	1	4	7	3	19

2 防疫指導

海産魚介類増養殖場20ヵ所について、それぞれの対象種の飼育時期に合わせて6～3月に巡回指導を行った（表3）。巡回時には、特に顕著な疾病の発生はほとんど見られなかった。また、使用できる水産用医薬品が限られていることや例年顕著な疾病の発生が少ないことから、水産用医薬品を保有している施設は少なく、使用しているところも少なかった。なお、水産用医薬品の適正使用については、毎年巡回指導していることから、周知されてきている。

3 魚病情報収集・技術研修

県魚類防疫会議、魚類防疫体制整備事業北部日本海ブロック地域合同検討会、全国養殖衛生管理推進会議

に出席し、情報交換並びに情報収集した。また、種苗期疾病連絡協議会から種苗期の疾病及び大量死亡に関する情報を収集した。さらに、農林水産省主催の水産用医薬品の講習と県内水面研究所主催の養殖衛生管理研修会を受講した。

表3 防疫巡回指導実績(平成19年度)

実施日	対象機関・施設	飼育魚種
6月5日	青森県栽培漁業センター日本海事業所	ヒラメ
6月22日	青森市水産指導センター	ウスメバル、マナマコ
7月24日	青森県栽培漁業センター	ヒラメ、キツネメバル、エゾアワビ、マナマコ
8月1日	泊漁業協同組合	マコガレイ
8月7日	小泊漁業協同組合	クロソイ
8月7日	下前漁業協同組合	クロソイ
8月7日	車力漁業協同組合	クロソイ
8月12日	大戸瀬漁業協同組合	キツネメバル
8月22日	竜飛ヒラメ生産組合	ヒラメ
8月29日	鯨ヶ沢漁業協同組合	クロソイ
9月11日	東通村アワビ種苗センター	エゾアワビ、マナマコ
9月11日	尻屋漁業協同組合	クロソイ、キツネメバル
9月11日	風間浦村アワビ種苗センター	エゾアワビ
9月11日	大間町北通り種苗育成センター	エゾアワビ
9月12日	脇野沢村漁業協同組合	クロソイ、ウスメバル
9月12日	青森県栽培漁業センター下北事業所	ヒラメ
10月3日	舳作漁業協同組合	ウスメバル
11月7日	八戸みなと漁協活魚種苗センター	キタムラサキウニ、エゾアワビ、マナマコ
12月7日	鯨ヶ沢町アユ種苗生産施設	アユ
3月26日	北彩漁業生産組合	ニジマス